



当方は住職・池口  
恵觀法主が護摩修  
法をされます。

堂宇を担当された  
西嶋棟梁に挨拶を  
いただける予定です。

## 高野山清浄心院 新家莊平画伯 妙音三天女図を訪ねる旅

学校法人兵庫医科大学名誉理事長を務められる新家莊平先生が  
高野山清浄心院に新しく建立された御堂の天井に妙音三天女図を奉  
納されました。その天女の奏でる妙音に誘われて世界遺産丹生津姫  
神社、高野山奥の院を訪ねる旅を企画しました。清浄心院では目で天  
女を楽しみ、心で妙音を楽しみ、宿坊料理で舌鼓を奏上いたします。

### 訪問先

丹生津姫神社  
高野山金剛峰寺  
高野山清浄心院  
鳳凰奏殿永山帰堂 妙音三天女図  
奥の院

日時 令和2年11月6日(金)  
集合 阪急岡町駅西側交番前 出発8:00 帰着19:00頃  
60名乗りの大型バスに定員20名 費用 10,000円  
申し込み先 阿賀敏雄 090-1896-4575  
tourplan・design 石尾賢一



### 新家莊平先生 経歴

昭和5年 大阪市北区の生れ 小さい頃から、絵に興味を持たれた  
堀川小学校時代は絵画で大阪市長から6年連続表彰  
大阪大学医学部 銀潮会OB会員、チャーチル会京都 会員  
大阪大学微生物研究所助教授  
兵庫医科大学教授(免疫学)、学長、理事長、現名誉理事長  
平成30年「旭日重光章」受章

主催 NPO法人リタイアメント情報センター  
理事長 竹川忠徳 顧問 中野寛成 関西支部長 阿賀敏雄

## "傑人"新家莊平先生のこと

チャーチル会京都

幹事長 木津谷 文吾

天才と言おうか逸材と言おうか、新家先生はまさに現代の"傑人"です。ご専門の医学はもとより芸術文化から哲学まで幅広い知識を持たれ、画才、文才、書才に富み、実業家としての実力も備えておられる。幸運にも私がこんな凄い人に出会えたのは、新家先生がチャーチル会に入会されたおかげです。

チャーチル会は戦後の索漠たる昭和24年に、絵筆を握ったこともない8人の文化人によって自己流の油絵の会として設立され、現在、全国に43の姉妹会があるという伝統ある絵画サークルです。会員は設立時の精神である自己流を貫き、上手も下手も関係なく個性的な絵を楽しんでいます。その中にあって、新家先生の絵は端正な心休まる写実画です。造詣の深い能楽、大好きな猫などをモティーフにした素晴らしい作品はプロの画家をも寄せつけません。これぞ天与の画才です。

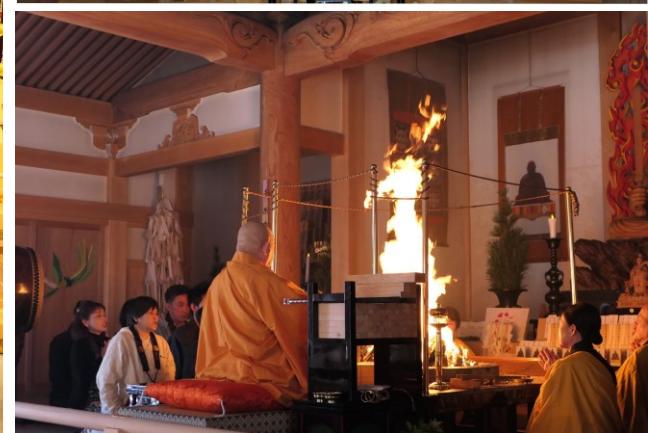
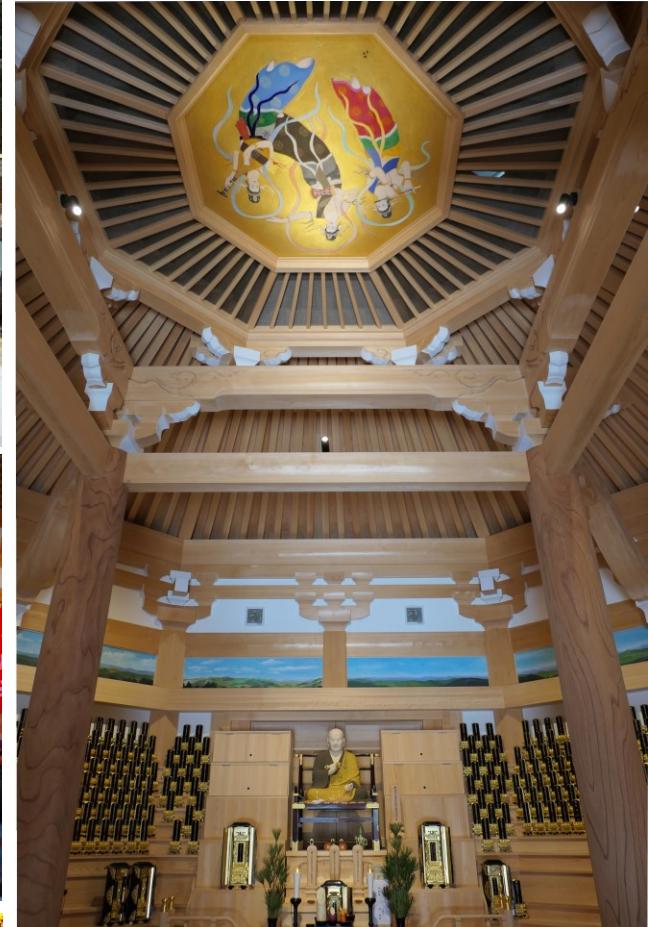
高野山別格本山の清淨心院が新築される御堂の天井画と欄間絵の作成を新家先生に依頼されたのはむべなるかなです。一般的に天井画と言えば龍が描かれますが、新家先生の天井画は天女です。おそらく、天女の天井画は日本で唯一だと思います。

美しいものを描くのは難しい。龍のほうがずっと描きやすいのです。美しく莊厳な天女を描くにあたっては構図や色彩にさぞ腐心されたことでしょう。また天女の天井画に感銘した同寺から、さらに引き続いて襖絵18枚を依頼され、目下、作成中とのことです。これらは千年先まで残るものであり、新家莊平の名は異色の絵師として後世に語り伝わることでしょう。珍しい天女の天井画は国宝になるかもしれません。チャーチル会の誇りです。

また、新家先生は兵庫医科大学理事長として、校是に「奉仕と愛」を掲げ、先端医学研究所の設立、篠山病院や兵庫医療大学の開設、災害時拠点病院の急性医療総合センターの開設、チーム医療教育システムの構築による有為な医療者の輩出、など、医学教育者かつ実業家として大きく貢献されました。この度、人生100年時代を迎え、理事長を退任して子供の時から好きだった画業に専念する道を選択されました。第二の人生は画家だというわけです。本年は卒寿を迎えますが、健筆はますます冴えて円熟味が増しています。

新家先生の手紙は墨筆です。ワープロで打った無機質な手紙が多い中で、達筆な墨筆の手紙をいただくと心が和みます。また文章が素晴らしい達者で、随所に名文を残されています。枚挙すれば尽きないのですが、このように何でもできる傑人は滅多にありません。敢えて挙げれば、レオナルド・ダ・ヴィンチでしょうか。

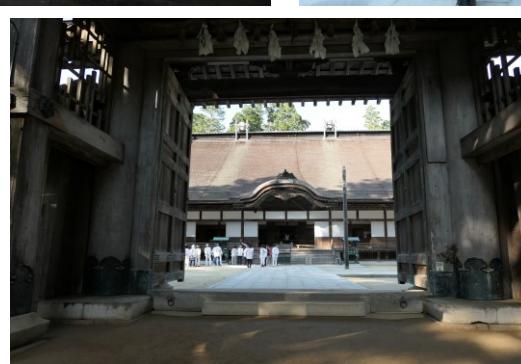
面白い話があります。ダ・ヴィンチの「モナリザ」やルノアールの「読書する少女」の本物とまがうほどの新家先生の模写画の中に子猫が描かれていることです。こんな悪戯ができるのも模写がしっかり描けているからです。この模写画を用いて「もうひとつのモナリザ発見！」のフェイクニュースの新聞コピーを作成、これを宴席で回覧して座を盛り上げていただいたこともありました。第二の人生に画道を選ばれた新家先生、今後とも健筆を念じます。



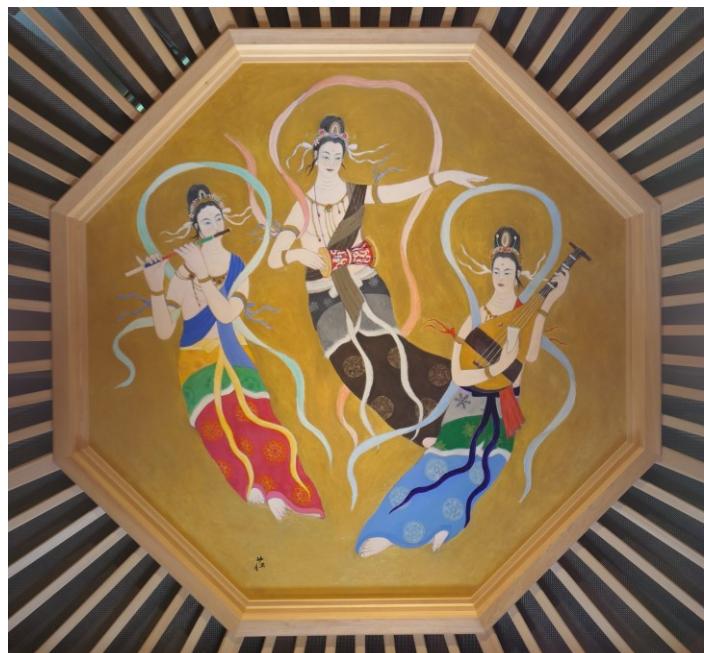
令和2年11月6日  
拝観・護摩供参拝

高野山別格本山清淨心院鳳凰奏殿永山帰道淨心閣  
願主池内恵觀大僧正普請奉行西嶋靖尚棟梁新家莊平画伯





世界遺産 丹生津姫神社  
清淨心院  
奥の院参道  
世界遺産 金剛峰寺



高野山別格本山清淨心院 鳳凰奏殿 永山帰道 淨心閣  
願主 池内惠觀大僧正 普請奉行 西嶋靖尚棟梁 新家莊平画伯

## 高野山ツアーリポート

木津谷 文吾

11月6日、朝8時、大型バスに乗って阪急岡町駅前を出発し高野山に向かう。途中、丹生津姫神社(世界文化遺産)に参拝し、幾つものトンネルと直線がなくカーブばかりの道路を走って、11時半ごろ目的の清淨心院に到着した。

清淨心院は高野山真言宗別格本山で、天長年間(824~34)弘法大師により草創された由緒ある寺院である。このたび、同院の鳳凰奏殿(護摩堂)、永山帰堂(位牌堂)が新築されたが、鳳凰奏殿の杉戸絵、永山帰堂の天井画を、医学者で素人の洋画家新家荘平先生に依頼されたという珍しいケースなので、今回それを見学しようというツアーリポートである。新家先生は玄人はだしの画力の人で、その端正な絵の右に出る者はいない。

清淨心院では、新家先生が待っておられ、早速、鳳凰奏殿の杉戸絵の説明に入った。頭領以下数名の宮大工(注)が、新家先生の説明に合わせて杉戸を入れたり外したりで、我々のツアーリポートが特別待遇だということを感じた。正面に不動明王(大仏師:松本明慶作)。その右の杉戸に白い鳳凰、左の杉戸には赤や緑などで彩色された二羽の鳳凰が描かれている。見事な作画に感銘を受けた。

続いて、永山帰堂の天井画の見学だ。八角形の堂。その内壁をグルリと取り囲む欄間の絵。これは、入口から順に、日の出—朝—昼—夕—夜中を、主に蓮の姿を中心に描いた風景画16枚である。生まれて花咲き、最後に枯れ、星になる無常を表している。そして中央の天井に、三人の天女が楽器を奏している。素晴らしい演出だ。この構想を立て、それぞれの構図や配色を考え、絵にするには、体力、才能、技力が必要だ。下絵を何度も何度も描き検討したという。天井画と言えば、通常は龍に決まっている。それを天女にするという発想が素晴らしい。おそらく、天女の天井画は、日本ではここだけだろうし、素人洋画家に描かせたのもここだけだろう。日本画は描いたことがないのでアクリル絵具を使ったと新家先生は仰る。検討過程を、下絵を何枚も見せながらの迫力ある説明に感動した。一筆一筆に乾坤の思いがこもっている。

昼食を新家先生を囲んで清淨心院の大広間で精進料理をいただいた後、清淨心院住職池口惠觀師が焚かれる護摩行にそれぞれの願いを書いた護摩木を投じて祈祷していただいた。

清淨心院に別れを告げ、武将や著名人の墓標が並ぶ参道を約1.5キロ歩いて奥ノ院に向かった。私は歩行困難な障害者のため、電動カートを貸してくださり運転を楽しんだ。

一日、スケジュール満載だったが、充実した有意義な日だった。土産にいただいた「柿の葉寿司」と「柿」を帰宅後に食べながら、思い返している。お世話して下さった方々に感謝しながら。

完

(注)宮大工

株式会社西嶋工務店 西嶋靖尚棟梁。国宝姫路城の「平成の大修復」を手掛けられた。

# 高野山清浄心院新家莊平先生妙音三天女図を訪ねる旅(1)

令和2年11月6日(金) 主催 NPO法人リタイアメント情報センター

8:00 岡町発	岸和田和泉IC・府道40号・170号・父鬼バイパス
72km(74分)	朝の渋滞+20分
9:34	道の駅くしがきの里 休憩20分
15km(25分)	
10:20	丹生津姫神社 参拝40分
16km(32分)	
11:30	清浄心院 食事 12:30 台所見学 周辺紅葉鑑賞
13:00	御堂妙音天女見学・ 13:30 護摩供 13:50出発
14:00	中の橋 奥の院 参拝90分 15:30出発
15:40	金剛峰寺(スケジュールにより車中見学)16:10出発
26km(42分)	
16:50	道の駅くしがきの里 休憩10分 17:00出発
72km(75分)	夕刻の渋滞+15分
18:30	岡町駅前



## 世界文化遺産 丹生津姫神社

1200年前、弘法大師空海はまず守護神として当社の神である丹生都比売大神（にうつひめおおかみ）と高野御子大神（たかのみこのおかみ）を祀る社を建てました。

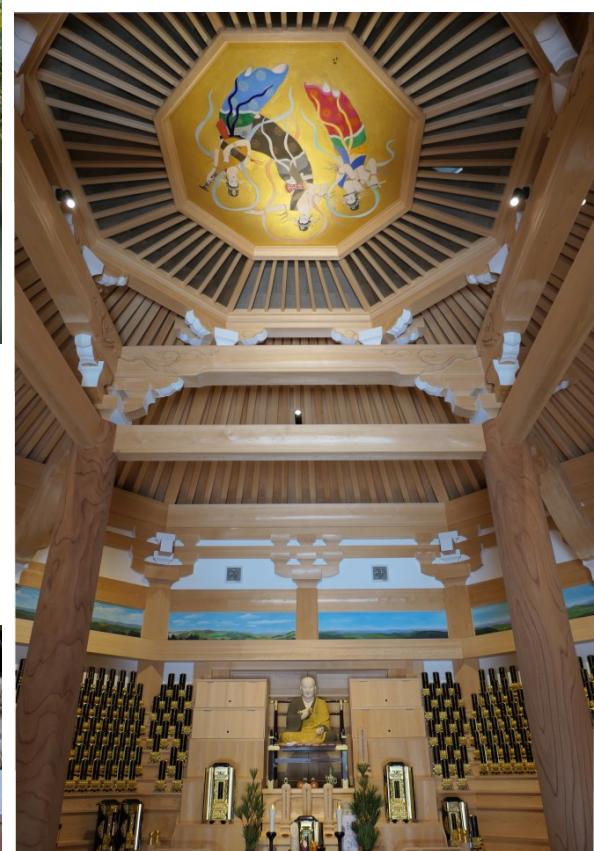
高野山の縁起によると、唐で習得した真言密教の道場となる地を求める弘法大師の前に、黒と白の犬を連れた狩人が現れ、弘法大師を高野山へ導いたと伝えられています。

この狩人は丹生都比売大神の御子である高野御子大神が化身された姿でした。丹生都比売大神よりご神領である高野山を借受け高野山に根本道場を開いた弘法大師は、丹生都比売大神と高野御子大神に深く感謝し、高野山の守護神（明神）として、山内の壇上伽藍に御社（みやしろ）を建てお祀りしました。



## 高野山真言宗別格本山 清浄心院

当院は天長年間（824～34）に高祖弘法大師により草創されました。平宗盛により再建され、寿永・元暦（1182～85）の頃には、滝口入道（斎藤時頼）が来住しました。徳川時代には院領高三五石、上杉謙信、佐竹義宣などの諸大名が檀家となりました。当院は、その名の如く清浄を極め、簡素にして優雅、高野山の伝統的な大釜のある台所など、総本山金剛峰寺の参考となったと言われる建築様式を今に残しています。



鳳凰奏殿永山帰堂 妙音天女群図

# 「高野山清淨心院新家莊平画伯妙音天女群図を訪ねる旅」

2020.11.6  
主催 NPO法人リタイアメント情報センター

## 参加者

阿賀敏雄	NPO法人リタイアメント情報センター関西支部長
飯田誠	画家 2020年9月 プリズム会個展
池口美智子	画家 2019年5月 ギャラリー日比谷個展
石原嶺	
伊丹淳一	『足あとを振り返って』著者
入江治子	
鵜川まき	
越智克司	豊陵会副会長
越智常雄	讀賣テレビ放送相談役
葛西芙紗	NPO法人国際交流の会とよなか(TIFA) 代表
木津谷文吾	チャーチル会京都・幹事長
小西紀子	
新家莊平	画家 妙音天女群図作者 兵庫医科大学名誉理事長
薦 敦子	
中野寛成	元衆議院議員・副議長、国家公安委員長
廣瀬純	建築士 母方宮大工、父方鍛冶師のモノ創り家系
中村昇功	
中村富美子	
西堀陽子	豊中歴史同好会会員
南克宏	天利保険事務所 代表
清水正弘	NALCわかばの会豊中代表 元豊中市議員・議長
石尾賢一	元修験行者 豊中歴史同好会会員

三密とは真言密教で伝えられる秘密の三業(さんごう)、身(しん)・口(く)・意(い)によって行われる基本の儀礼です。

本尊を現す「印(いん)」を手で結ぶことを、「身密」。

真言を、口で唱えることを「口密」。

ご本尊の姿を心(意)に思い描くことが、「意密」です。

この三つが完璧にできたとき、ご本尊と一体となることができ、その身そのままで「即身成仏」を達成することができると言われています。

#### □四度加行

高野山真言宗では初習の行者は「四度加行」という体系の行法を習得します。これは「十八道(じゅうはちどう)念誦法」にはじまって、「金剛界(こんごうかい)法」、「胎藏界(たいぞうかい)法」、「護摩(ごま)法」の四段階の行法マスターして伝法灌頂を受法する資格を得ます。最後に伝法灌頂檀に入檀して伝法阿闍梨位が授けられます。

#### □不動護摩法によるご祈祷

本日清淨心院では池口恵觀住職が13時30分より不動明王を本尊とした「不動護摩」という修法をされます。食事の折に「添え護摩木」をお渡ししますのでお名前、数え年、ご祈願には「家内安全」「身体健全」「心願成就」のいずれかを書いてください。

不動護摩法にて祈祷をしていただきます。

#### □入壇作法に注目してください。

ところで導師が座して護摩行をはじめるにあたり“入壇作法”を行じます。

導師は入壇作法のなかで、まず念珠を三艘(口伝にてお伝えします)にして両手の掌(合掌した手の間)に三艘にした念珠をはさんで壇の前にて

衆生無辯誓願度(しゅじょうむげんせいがんど)

と唱えながら 両掌を額におく

次に

煩惱無辯誓願断(ぼんのうむへんせいがんだん)

と唱えながら 両掌を中心におく

次に

法問無辯誓願学(ほうもんむへんせいがんがく)

と唱えながら 両掌を左肩におく

次に

無上菩提誓願証(むじょうばだいさいがんしゅう)

と唱えながら 両掌を右肩におく

という作法を行います

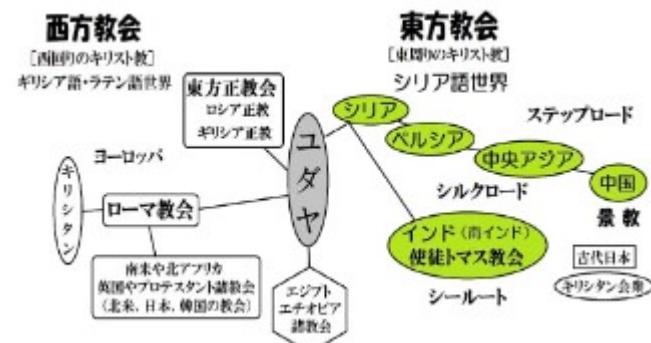
赤字の部分を実際にやってみてください。

奥の院に「大秦景教流行中国碑(だいしんけいきょうりゅうこうちゅうごくひ)」という碑が建てられています。「大秦」とはローマ。「景教」とはキリスト教のことです。つまり「大秦景教流行中国碑」とは「ローマのキリスト教が、中国で流行したことを讃える碑」となります。

空海は中国でキリスト教が流行していた時代に長安に渡りました。空海が伝えた真言密教は景教、つまり東方教会キリスト教の影響を受けているのかもしれません。

そしてそれは新家先生の妙音天女群図のほのかな西域の香りにつながっています。

本日はどうか五感を全開にして世界文化遺産をお楽しみください。



・聖書 仏典 東遷 倭と大陸の関係 覚え

聖書の一神教的な世界観は日本まで東遷した可能性があります。エジプト王ラムセス二世の時代モーゼの出エジプトから聖書と仏典の東遷を西暦でならべてみました。\*単なる個人的忘備メモ(覚え)です。

ラムセス二世(-1314～-1224)・モーゼが、ユダヤ人を率いてエジプトから脱出する『旧約聖書 出エジプト記』バベルの塔で神の怒りに触れる(東遷第一波)

-1046「周」興る(～-771)

ソロモン王(-965～-930)十二部族にまとめる

-922 イスラエル南北に分裂

-771「東周」「春秋」

-721 アッシャリアの侵略(東遷第二波)

-586 バビロン捕囚(東遷第三波)

-538 ペルシャ王クロスイスラエル人開放

孔子(-551～-479)天と地への生贊は上帝に仕えるため(一神教的)

-500「齊」都「臨淄」にヨーロッパ人の人骨(日中調査団2000)

**-463 ゴータマ・シッダッタ生まれる**

-403「東周」「戦国」

-221「秦・始皇帝」興る 秦の一派韓半島に逃れ秦韓を名乗る。徐福集団も倭へ

-208「前漢」興る

-139 武帝(前漢)『大月氏』へ派遣『大月氏』=トルコ・ペルシャ系

-100～100 西日本に高地性集落が発達

-20 斯盧国(辰韓)

8「新」ユダ・トマスインド・パルティア王国に伝道 『トマスの福音書』1945発見ナグハマデイイ写本

14 倭人の兵船100余隻で海辺に侵入

25「後漢」興る

57 倭の奴国朝貢『後漢書』

66 ローマ軍イスラエルに侵入

79 後漢が使者(甘英)をローマに派遣

107 倭国王師升(スイショウ)生口160人を献ずる『後漢書』

121 倭国が東の辺境を攻める『新羅本紀』

**143 インドパルティア(安息)国太子「安世高」が洛陽へ 仏典と共に『トマスの福音書』も中国に伝わる**

158 倭人が交際のために訪問『新羅本紀』

173 倭の女王卑弥呼の使者が訪問『新羅本紀』

184～192紅巾の乱

194 異常気象大飢饉後漢衰退

**200 龍樹ナーガルジュナ(150-250)中觀派 「空」觀 後に鳩摩羅什訳が中国へ**

220 三国「魏」「蜀」「吳」

232 倭人が金城(斯盧国の都)を包囲『新羅本紀』

**248 卑弥呼没 卑弥呼は『鬼道』祭主**

249 倭人が舒弗那の干老を殺害『新羅本紀』

265 魏滅び晋興る

266 壱與朝貢(これより150年倭国の記録が途絶える)

270 この頃倭がヤマトに進出。王權の象徴である前方後円墳が全国に築造されはじめる。

280「晋」

292 倭兵が沙道城を攻め落とす『新羅本紀』

312 倭国王の求めにて急利の娘を贈る『新羅本紀』

317「東晋」と「十六国」

345 倭が国交を断つ『新羅本紀』

356 新羅興る(～935)

367 倭・百濟軍事同盟(石上神宮七支刀)

**401 鳩摩羅什(350-409頃) 龍樹菩薩の『十住毘婆沙論』『中論』 他『法華経』『阿弥陀経』『維摩経』を訳す**

538 仏教公伝(百濟、声明王より仏像・経綸などが贈られる)

804 空海(774-835)入唐。長安で青竜寺惠果より真言密教を伝授される。